

学校教育推進計画の進捗状況について

(1) 趣旨

千葉市学校教育推進計画（計画期間：平成21～27年度）の実施6年目における平成26年度の進捗状況について、達成指標及びアクションプランの評価をまとめた。

(2) 達成指標の評価

最終目標値に対する平成26年度実績値の達成状況は、次の表のとおりである。

区 分	指標数
最終目標値を達成した指標	40
概ね達成が見込まれる指標 ※1	10
遅延している指標 ※2	40
計	90

※1 「概ね達成が見込まれる指標」とは、目標値の6/7を超えている指標

※2 「遅延している指標」とは、目標値の6/7に満たない指標

① 最終目標値に達している指標の主なもの（施策展開の方向ごと）

ア 施策展開の方向Ⅰ 「わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身に付けさせる」

指標番号	達成指標とその評価理由
11	<p>「数学の勉強が好きだ」と肯定的に回答する中学2年生の割合 【指導課】</p> <p>平成25年度に59%で年度目標値に達していたが、平成26年度は63%に向上し、年度目標値を上回り、最終目標値を超えることができた。</p> <p>これは、日常事象の教材を積極的に取り扱い、学習意欲を高めるとともに、基礎・基本の確実な習得及び活用を図るための工夫した授業を実践している成果と考えている。</p> <p>なお、全国平均は57%であり、本市の指標が上回っている状況である。</p>

イ 施策展開の方向Ⅱ 「社会性を備えた豊かな心をはぐくむ」

指標番号	達成指標とその評価理由
18	<p>「係活動等責任を持って行っている」と回答する小学5年生の割合 【指導課】</p> <p>平成25年度が89%で最終目標値を超えたが、平成26年度はさらに向上し、91%となった。</p> <p>これは、農山村留学や移動教室等の体験活動において、各学校が自主的・実践的な活動となるよう工夫し、児童が自己の仕事を責任を持って行うことで、満足感や充実感を得られるためである。</p>
19	<p>「係活動等責任を持って行っている」と回答する中学2年生の割合 【指導課】</p> <p>平成26年度が93%で最終目標値を超えることができた。</p> <p>これは、自然教室や職場体験学習といった学校行事等において、学校や社会の一員としての役割や責任を果たす活動となるように各学校が工夫することで、生徒が満足感や充実感を得られるためである。</p>

ウ 施策展開の方向Ⅲ 「体力を高め、健康な体をはぐくむ」

指標番号	達成指標とその評価理由
40	12歳(中学1年生)のDMF指数(永久歯の一人あたりの平均虫歯指数) 【保健体育課】
<p>平成25年度は0.97で全国平均の1.05を下回り、最終目標値に達することができた。平成26年度はさらに指数を0.74(全国平均は1.00)に更新した。</p> <p>これは、各学校における歯科衛生士による口腔衛生指導や歯科医師会による歯と口の啓発事業等の実施により、児童生徒の歯と口の健康づくりへの意識が高まるとともに、家庭との連携により歯みがきの習慣が身に付いたためである。</p>	

エ 施策展開の方向Ⅳ 「家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす」

指標番号	達成指標とその評価理由
48	学校セーフティウォッチャーの登録者数 【学事課】
<p>平成25年度は25,271人の登録者数により最終目標値を超えていたが、平成26年度は、さらに登録者数を増やし26,855人とした。</p> <p>これは、各学校が自治会や育成委員会へ積極的な呼びかけを行っていることや、可能な範囲での参加や、関わりで良いという事業の主旨が伝わってきたことにより、参加しやすい事業という認識が地域に広がったためである。</p>	

オ 施策展開の方向Ⅴ 「子どもの学びを支える教育環境を整える」

指標番号	達成指標とその評価理由
58	市立千葉高校における、単位制で選択科目が充実しており、授業や補習など教科指導が熱心に行われていると回答した生徒の割合 【市立千葉高】
<p>平成25年度に85%で最終目標値に達していたが、平成26年度はさらに向上し、90%となった。</p> <p>これは、昨年度まで後期に実施していた生徒による授業評価を前期にも実施することとし、さらに管理職による授業観察も前期・後期と2回実施したことにより、各教員が授業評価の結果と管理職からのアドバイスをもとに前期から授業改善に取り組むことができたことによる。</p> <p>また、補習については、国・数・英を中心とした朝と放課後の通年の進学補習と、29講座の進学補習を夏季休業中にも実施したことなどにより、数値が向上したと考えている。</p>	

カ 施策展開の方向Ⅵ 「意欲と指導力のある教職員を確保・育成するとともに、教職員が職務に専念できる体制を整備する」

指標番号	達成指標とその評価理由
63	基本研修受講者の満足度 【教育センター】
<p>平成25年度の91%に対して、平成26年度は96%に向上し、昨年度に続いて最終目標値を超えることができた。</p> <p>例年、次年度の研修内容について9月～1月にかけて、教育センター内において、現場の声を参考にしながら、教職員のニーズに合った研修内容の企画・検討を進めている。その地道な積み重ねの結果として、基本研修受講者の満足度の高さにつながっているととらえている。</p>	

キ 施策展開の方向Ⅶ 「多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める」

指標番号	達成指標とその評価理由	
82	高等特別支援学校の設置	【指導課】
<p>平成25年度に開校し、最終目標値は達成したが、平成26年度は、さらに作業種目を拡充することで、教育内容の充実を図った。</p> <p>今度も、生徒が社会自立・職業自立していけるように整備等を進めていく。</p>		

ク 施策展開の方向Ⅷ 「学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもの成長をサポートする」

指標番号	達成指標とその評価理由	
89	学校関係者評価を実施している学校の割合	【学事課】
<p>平成21年度に最終目標値である100%を達成し、その後も維持し続けている。</p> <p>これは、学校評議員を始めとした関係者評価を活用して、教育活動や学校運営などの改善、充実を図り、より質の高い学校教育の実現を目指すことの重要性が各学校に浸透したためである。</p>		

② 最終目標値に達することが困難と思われる指標の主なもの

ア 施策展開の方向Ⅳ 「家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす」

指標番号	達成指標とその評価理由	
43	放課後子ども教室の年間延参加児童数	【生涯学習振興課】
<p>当該成果指標値の最終目標値は174,000人であるが、平成26年度の実績値が92,358人であることから、平成27年度に最終目標値に達することが難しい状況である。</p> <p>放課後子ども教室は、保護者を中心とした地域のボランティアが運営を行っているが、事業開始から8年が経過し、中心となるコーディネーターの高齢化、新たな担い手不足等により、実施日数が伸び悩み、当初設定した目標値を大幅に下回っている。</p> <p>そのため、各教室の活動を支援するため、有償ボランティアの配置基準の見直し、科学関係等の活動支援プログラムの充実等の既存の取組みに加え、平成26年度には、コーディネーターの全校一律の複数配置、相談アドバイザーの派遣及びボランティア情報の登録を開始するなど協力者の負担軽減につながる活動支援を行っているが、現時点では拡充に結びついていない。</p> <p>これを踏まえ、今後は民間企業や大学等の協力も得ながら、より多様で魅力的な体験・学びの機会の提供につながる活動支援方策を検討することで、年間参加児童数の増加を図っていく。</p>		
46	公民館の小・中学生の学習者数（延べ数）	【生涯学習振興課】
<p>当該成果指標の最終目標値は48,000人であるが、平成26年度の実績値が28,899人であることから、平成27年度に最終目標値に達することが難しい状況である。</p> <p>公民館を利用するクラブ・サークル等に参加する子どもたちが減少したこと、施設開放時に来館する子どもたちが減少したことが要因と考えている。</p> <p>今後は、夏休み工作教室等の少年教育講座や学習場所の開放をさらに各学校を通じて周知広報し、公民館に来て、親しんでもらうこと、さらには、クラブ・サークル等に依頼して、小中学生の参加をより呼びかけてもらうことなど、子どもの居場所としての公民館の活用方法について検討していきたい。</p>		

イ 施策展開の方向V 「子どもの学びを支える教育環境を整える」

指標番号	達成指標とその評価理由
52	普通教室2台、特別教室6台の配備に向けたLAN用コンピュータの整備状況 【教育センター】
<p>当該成果指標の最終目標値は100%であるが、平成26年度の実績値が52%であることから、平成27年度に最終目標値に達することが難しい状況である。</p> <p>平成27年度中に次期LAN用コンピュータシステムを導入し、それと同時にコンピュータの設置台数を増やすことで、最終目標値の100%を達成する予定であった。しかし、計画を変更し、次期システムの導入を見送ったことから、最終目標値の達成が困難になったものである。</p> <p>引き続き、コンピュータの設置台数を含めた次期システムの仕様について検討し、早期の目標達成に努めていく。</p>	

(3) アクションプランの評価

全171項目のアクションプランにおける、平成26年度事業計画に対する事業実績に関する評価は以下のとおりであった。(完了したアクションプラン等を除く)

平成26年度事業計画に対する事業実績に関する評価

評価	基準	件数	構成率
a	特に成果が高い。	6	3%
b	H26年度事業計画を概ね達成している。	162	95%
c	H26年度事業計画が達成できなかった。未着手であった。	3	2%

① a 評価になった6項目 (アクションプラン番号)

- ・ 歯と口の健康づくりの推進 (73)
- ・ 学校セーフティウォッチャーの推進 (92)
- ・ 千葉県未来の科学者育成プログラム (193)
- ・ 特別支援教育指導員の配置 (150)
- ・ 学校訪問相談員の派遣 (151)
- ・ 学校情報の発信 (181)

② c 評価になった3項目 (アクションプラン番号)

- ・ 放課後子ども教室の推進 (82)
- ・ 地震等に備えた建物の安全性の確保 (耐震改修を除く) (98-2)
- ・ インターナショナルスクールとの連携 (170)

(4) アクションプランの変更

平成26年度から、「ボランティア教育の推進」(31-1)を「学校・家庭・地域連携によるまちづくりの推進」(91)に整理統合した。